

私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。

イザヤ51:1

2014(26)年 週 報

5月25日

第4聖日

3353号

「教会の苦難と栄光」

(Iテサロニケ連続講演第9回)

聖言

私たちの主イエスが再び来られるとき、御前で私たちの望み、喜び、誇りの冠となるのはだれでしょう。あなたがたではありませんか。あなた方こそ私たちの誉れであり、また喜びなのです。(Iテサロニケ2:19, 20)

礼拝の恵み≡ サマリヤの女の礼拝(ヨハネ四)

- 一、礼拝の場所(二〇節)「神の家」は今日では神の民である。「ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。」(マタイ一八ノ二〇)クリスチャンの礼拝の場所は彼らの大祭司のいます所、天である。第一にキリストの贖罪のみわざ、第二にキリストがいま神の右に座して支配したまうことを堅守するなら信仰によってそこへはいるのである。
- 二、礼拝の対象(二三節)「霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。」礼拝をささげに行くのは天にいます自分の父であることを心に留めるのは幸い。
- 三、礼拝者の関係 アバ父と神を いまよびまつる 子らよりほかには み父をしらず イエスの血によりて このほまれ受く(ゼームス・G・デック)
- 四、礼拝の性格「霊とまこと」(二四節)もう血も祭壇もない、犠牲の供え物は終わった。火焰も煙ももう上がらない。小羊はもう屠られない。尊い血が、尊い血管から流され 魂の罪を洗い、真赤な汚れを洗いきよめた。(ボナー)
- 五、礼拝の時「永遠の中の今です」(二三節)
- 六、礼拝するための力 礼拝にとって是非必要なものは我らの手にある神の言葉と心にある神の霊である。礼拝の重要性 「父はこのような人々を礼拝者としてもとめておられます。」(二三節「いと高く、いと聖なる者、とこしえに住む者」が、謙卑な信者に目をとめ礼拝を求めたもうとは信じがたい程の事。
- 七、

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

「神のことば」(二テサロニケ連続講演第八回)

「こういうわけで、私たちとしてもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたは、私たちから神の使信のことばを受けたとき、それを人間のことばとしてではなく、事実どおり神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いているのです。」(一テサロニケ二ノ十三)

「こういうわけで」とは理由です。パウロが御再臨の時に相応しく備えるようにテサロニケの信者に命じたことを忠実にまもり、彼の言葉を神の言葉として受け入れたということです。黙示二二ノ一八「私はこの書の預言のことばを聞くすべての者に証しする。もし、これに付け加える者があれば、神はこの書に書いてある災害をその人に加えられる。」神のことばとは聖書です。権威があります。従う義務があります。聖書に従うが牧師に従わない。これは本当に神に従うようになってはいけません。事実神の言葉として受け入れる。聖日、週の半ばの祈禱会で語られる御ことばは神の言葉です。神の言葉は個人的に聞くが家族的に教会の集いを通して聞くことばできます。証しのなかに、会話の中にも聞くことができます。中心は聖書から聞くことができます。「信仰は聞くことにより、聞くはキリストについてのみことばです。」(ローマー一〇ノ一七)それとともに御言葉を聞くだけで終わる人は「また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってはいけません。みことばを聞いても行わない人がいるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で見る人のようです。自分をながめてから立ち去ると、すでにそれがどのようなであつたかを忘れてしまいます。」(ヤコブ一ノ二二、二三)

「エゼキエルの任務」(エゼキエル連続講演第七回)

「しかし、もしあなたが正しい人に罪を犯さないように警告を与えて、彼が罪を犯さないようなれば、彼は警告をうけたのであるから、彼は生きながらえ、あなたも自分の命を救うことになる。」(エゼキエル三ノ二一)

預言者は自分の考えを語るのではなく、かみのことばを語るように任じられました。パウロは福音の使徒(特別な使者)である。そうであるから、預言者の役目は神の言葉をそのまま語ることである。相手によって語ったり、語らなかつたりすることは許されない。なぜなら、神の代わりに話すのだから、自己都合で話すことを変えるなら、それは神のお考えを話していないことである。霊的危機を民に伝える預言者は、神の言葉を水増したり、反対に減らしたりしないで、ありのままかたる。「私はすべてのことを、福音のためにしています。それは、私も福音の恵みとともに受ける者となるためなのです。競技場で走る人たちは、みな走っても、賞を受けれられるのはただひとりだ、ということを知っているでしょう。ですから、あなたがたも、賞を受けられるように走りなさい。また闘技をする者は、あらゆることについて自制します。彼らは朽ちる冠を受ける為にそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受ける為にそうするのです。ですから、私は決勝点がどこかわからないような走り方をしていません。空を打つような拳闘をしてはいません。私は自分のからだを打ちたたいて従わせます。それは、私がほかの人に宣べ伝えておきながら、自分自身が失格者になるようなことのないためです。」(一コリント九ノ二三〜二七)福音宣教のために選ばれたものとして神の言葉を正確に宣べ伝えていくことに励みます。なら、選手も審判も裁かれぬ。(「エゼキエル書」鷹取裕成著参考)

本部六月行事計画

一日(日) 満四三周年合同召天記念礼拝 午前一〇時

礼拝説教「食事と信仰」詩篇二三ノ五

記念会説教「自然と信仰」詩篇一九ノ一

説教者 山本牧師

二日(月) 教団牧師会 午前一〇時

六日(金) 楽しい祈りの集い 午後一時

一九日(木) 榎原家午後二時

二三日(月) 説教塾 午前十一時

二四日(木) 兵庫リバイバル祈禱会 午後一時

二七日(金) 大日丘集会 午後五時

会計役員 山村姉 庄司姉 榎原姉 守屋姉

六月召天会員

一日西田照雄先生四周 二日小段マツヨ姉五二周 三日中小路

きく姉四五周 四日山川静枝姉 八六周年 五日西川スエ姉六

八周 宇田川恭子姉四九周 梶原要兄二四周 天春須磨子一四

周年 一〇日佐野かめ姉 七五周 後藤キミ姉六三周年 十一

日魚住キヨ姉二四周 西村すず子二周 十二日北良博兄二二周

十三日北田幸民兄二周一〇三周 十四日小段次吉兄三七周 十

五日森寛隆兄九一周 十八日紺本きく姉八三周 二五日石橋庸

兄三四周年 二六日内海咲子姉一二周 二七日紺本栄子姉八〇

周 二七日山村留太郎兄五三周 藤井春信兄二五周年

司 式 者 山本 牧師

司 会 者 庄司 久子姉

奏 楽 小村真里子姉

一、賛 美 第二賛一七一「大波のよう」一 同(四頁)

一、主の祈り 一 同(三頁)

一、賛 美 聖歌六五七「おおしくあれ」一 同(五頁)

一、紙 芝 居「主はよみがえられた」 榎原詩子姉

(手作りプレゼント 大内朋子、松山真喜、琴里さん)

一、賛 美 聖歌一七二「墓の中」 一 同(六頁)

一、祈 禱 尾瀬瑠璃子姉

一、賛 美 四八八「はるかに」 一 同(七頁)

一、説 教 「自然と信仰」 山本 牧師

一、賛 美 聖歌六八七「まもなく」 一 同(八頁)

一、感 謝の祈 禱 大内和子姉

一、頌 栄(五四一) 一 同(九頁)

一、終 禱 山本 牧師

一、記 念 撮 影 納骨堂前集合

一、高橋英子姉納骨式 高橋正雄家

一、納骨者名報告 長(二一〜二二頁) 山村茂雄兄

副(二三〜二四頁) 三永 学兄

(名を呼ばれた家族より入室)

一、賛美四八九「きよき岸辺」一 同(二〇頁)

※三時半にマイクロボスが迎えに来ます。

【注】雨天の場合各自、自動車で納骨堂に行き賛美と祈禱に中に写真を見て天上の故人に会い、主を礼拝して、すぐに教会に帰り右のプログラムをおこないます。